

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	中国財務局長
【提出日】	平成25年8月12日
【四半期会計期間】	第35期第1四半期（自平成25年4月1日至平成25年6月30日）
【会社名】	株式会社秋川牧園
【英訳名】	AKIKAWA FOODS & FARMS CO., LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 秋川 正
【本店の所在の場所】	山口県山口市仁保下郷317番地
【電話番号】	083(929)0630
【事務連絡者氏名】	経営管理部次長 原田 良人
【最寄りの連絡場所】	山口県山口市仁保下郷317番地
【電話番号】	083(929)0630
【事務連絡者氏名】	経営管理部次長 原田 良人
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第34期 第1四半期連結 累計期間	第35期 第1四半期連結 累計期間	第34期
会計期間	自平成24年4月1日 至平成24年6月30日	自平成25年4月1日 至平成25年6月30日	自平成24年4月1日 至平成25年3月31日
売上高(千円)	1,061,112	1,054,244	4,291,332
経常利益又は経常損失() (千円)	304	14,437	43,118
四半期純損失()又は当期純利益(千円)	5,953	18,225	18,650
四半期包括利益又は包括利益(千円)	6,864	17,244	23,522
純資産額(千円)	1,287,801	1,288,424	1,318,188
総資産額(千円)	3,838,520	3,828,291	3,960,174
1株当たり四半期純損失金額()又は 1株当たり当期純利益金額(円)	1.42	4.36	4.46
潜在株式調整後1株当たり四半期(当 期)純利益金額(円)			
自己資本比率(%)	33.5	33.7	33.3

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高には、消費税等は含んでおりません。

3. 第34期第1四半期連結累計期間及び第35期第1四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、1株当たり四半期純損失金額であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

4. 第34期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。
また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

2【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1)業績の状況

当第1四半期連結累計期間（平成25年4月1日～平成25年6月30日）におけるわが国の経済は、政府の経済政策や金融政策等の効果・期待から円安・株高が進み、企業収益や個人消費に一部改善がみられたものの、新興国における景気減速懸念、円安による輸入原材料価格の高騰や電気料金の値上げ等により、依然として先行き不透明な状況が続いております。

食品業界におきましては、円安による原材料価格の高騰や、消費者の根強い低価格志向が継続していることもあり、引き続き厳しい環境にあります。

一方当社では、安心・安全な食の市場の成熟化が進むことを早くから予測し、食の安心・安全のさらなるレベルアップと、新時代の健康提案に向けての研究開発、情報発信、栄養提案などに取り組んでまいりました。今後、当社の商品開発や事業展開において大きな力になるものと期待しております。

このような状況の中、当社の主たる販売先である産直型の生活協同組合及び宅配会社に対する主力の鶏肉の販売は、前年同期と比べ減少したものの、宅配事業の会員数増加による販売の伸長で、全体の売上は前年並みとなりました。利益面につきましては、宅配事業の売上増加や、若鶏の飼育成績の向上等の増益要因もありましたが、飼料価格の高騰や、鶏肉の販売減少の影響が大きく減益となりました。なお、当社グループの売上は、鶏肉等の需要が秋から冬にかけて多くなるため、利益の大半が下半期に発生する傾向があり、当期につきましてもその形で推移するものと見込んでおります。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は、10億54百万円（前年同期比0.6%減）、営業損失は16百万円（前年同期は4百万円の損失）、経常損失は14百万円（前年同期は0.3百万円の利益）、四半期純損失18百万円（前年同期は5百万円の純損失）となりました。

セグメントの業績は次のとおりであります。

（産直畜産事業）

主に産直型の生活協同組合及び宅配会社へ販売している鶏肉、冷凍加工食品、鶏卵等で構成される産直畜産事業につきましては、主力の鶏肉の販売が前年同期を下回ったため、売上高は減少いたしました。利益面につきましては、飼料を中心とする原材料価格の高騰と、鶏肉の販売減少により減益となりました。

この結果、産直畜産事業の売上高は、8億47百万円（前年同期比2.7%減）、営業利益は55百万円（前年同期比21.8%減）となりました。

（総合宅配事業）

当社の食品を中心に会員宅に商品をお届けする会員制宅配事業「スマイル生活」につきましては、全国向けの宅配の会員数が首都圏を中心に伸長したことにより、売上高・利益ともに増加いたしました。

この結果、総合宅配事業の売上高は、1億70百万円（前年同期比8.0%増）、営業損失は0.5百万円（前年同期は3百万円の損失）となりました。

（牛乳製造卸売事業）

牛乳や乳製品を生産、販売している牛乳製造卸売事業につきましては、新容器による地元量販店での販売展開が順調に伸長し、売上高は増加いたしました。利益面につきましては、販売費及び一般管理費の増加により微減となりました。

この結果、牛乳製造卸売事業の売上高は、15百万円（前年同期比7.3%増）、営業損失は5百万円（前年同期は4百万円の損失）となりました。

(2)事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(3)研究開発活動

当第1四半期連結累計期間におけるグループ全体の研究開発活動の金額は、12,093千円であります。

なお、当第1四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	8,000,000
計	8,000,000

【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間末現在発行数(株) (平成25年6月30日)	提出日現在発行数(株) (平成25年8月12日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	4,179,000	4,179,000	東京証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	単元株式数 1,000株
計	4,179,000	4,179,000	-	-

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (千株)	発行済株式総 数残高(千株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増 減額(千円)	資本準備金残 高(千円)
平成25年4月1日～ 平成25年6月30日	-	4,179	-	714,150	-	381,030

(6)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成25年3月31日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成25年6月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 5,000	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 4,169,000	4,169	-
単元未満株式	普通株式 5,000	-	-
発行済株式総数	4,179,000	-	-
総株主の議決権	-	4,169	-

【自己株式等】

平成25年6月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
(株)秋川牧園	山口県山口市仁保下郷317	5,000	-	5,000	0.12
計	-	5,000	-	5,000	0.12

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間（平成25年4月1日から平成25年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（平成25年4月1日から平成25年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、西日本監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】
(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成25年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	711,247	561,246
受取手形及び売掛金	499,474	512,546
有価証券	120,549	120,552
商品及び製品	75,541	78,329
仕掛品	295,245	316,053
原材料及び貯蔵品	68,225	65,141
繰延税金資産	18,915	16,447
未収入金	157,331	147,699
その他	29,929	29,662
貸倒引当金	1,043	956
流動資産合計	1,975,416	1,846,722
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	648,960	638,387
機械装置及び運搬具(純額)	219,146	218,364
土地	791,203	792,923
建設仮勘定	18,893	15,570
その他(純額)	89,780	95,600
有形固定資産合計	1,767,984	1,760,846
無形固定資産		
のれん	64,639	61,310
その他	13,289	12,245
無形固定資産合計	77,929	73,555
投資その他の資産	138,844	147,168
固定資産合計	1,984,758	1,981,569
資産合計	3,960,174	3,828,291
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	395,024	354,991
短期借入金	1,154,947	1,042,329
リース債務	12,344	11,821
未払法人税等	15,712	3,501
賞与引当金	20,200	16,441
その他	214,545	256,550
流動負債合計	1,812,773	1,685,635
固定負債		
長期借入金	521,727	547,294
リース債務	38,062	35,242

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成25年6月30日)
繰延税金負債	22,559	22,830
退職給付引当金	193,447	198,462
役員退職慰労引当金	53,416	50,402
固定負債合計	829,213	854,232
負債合計	2,641,986	2,539,867
純資産の部		
株主資本		
資本金	714,150	714,150
資本剰余金	554,541	554,541
利益剰余金	46,928	16,182
自己株式	3,573	3,573
株主資本合計	1,312,047	1,281,301
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	6,141	7,123
その他の包括利益累計額合計	6,141	7,123
純資産合計	1,318,188	1,288,424
負債純資産合計	3,960,174	3,828,291

(2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)
売上高	1,061,112	1,054,244
売上原価	831,757	835,987
売上総利益	229,355	218,257
販売費及び一般管理費	233,693	234,312
営業損失()	4,338	16,055
営業外収益		
受取利息	126	369
受取配当金	699	745
補填金収入	8,636	4,229
その他	2,008	1,445
営業外収益合計	11,470	6,788
営業外費用		
支払利息	6,800	5,138
その他	27	32
営業外費用合計	6,827	5,170
経常利益又は経常損失()	304	14,437
特別利益		
固定資産売却益	747	628
受取保険金	2,297	480
特別利益合計	3,044	1,108
特別損失		
固定資産除却損	130	122
災害による損失	2,850	-
特別損失合計	2,980	122
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期 純損失()	368	13,451
法人税、住民税及び事業税	4,289	2,557
法人税等調整額	2,032	2,217
法人税等合計	6,321	4,774
少数株主損益調整前四半期純損失()	5,953	18,225
四半期純損失()	5,953	18,225

【四半期連結包括利益計算書】
【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)
少数株主損益調整前四半期純損失()	5,953	18,225
その他の包括利益		
其他有価証券評価差額金	910	981
その他の包括利益合計	910	981
四半期包括利益	6,864	17,244
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	6,864	17,244

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

1 資産の金額から直接控除している貸倒引当金の額

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成25年6月30日)
投資その他の資産	478千円	478千円

(四半期連結損益計算書関係)

前第1四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年6月30日)及び当第1四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年6月30日)

当社グループの主たる事業では、鍋シーズンやクリスマスなどの冬季に、鶏肉製品が集中して受注を受けるため、第3四半期連結会計期間の売上高は他の四半期連結会計期間の売上高と比べ著しく高くなるという季節的変動があります。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)
減価償却費	62,818千円	60,991千円
のれんの償却額	3,329	3,329

(株主資本等関係)

前第1四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年6月30日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年6月26日 定時株主総会	普通株式	12,520	3	平成24年3月31日	平成24年6月27日	利益剰余金

当第1四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年6月30日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年6月25日 定時株主総会	普通株式	12,520	3	平成25年3月31日	平成25年6月26日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				その他 (注)	合計
	産直畜産	総合宅配	牛乳製造卸売	計		
売上高						
外部顧客への売上高	871,327	157,747	14,044	1,043,118	17,993	1,061,112
セグメント間の内部売上高 又は振替高	27,991	553	15,728	44,273	63,766	108,039
計	899,318	158,301	29,772	1,087,392	81,760	1,169,152
セグメント利益又は損失 ()	70,991	3,840	4,233	62,917	1,734	61,183

(注)「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、牛乳宅配事業及び物流部門等を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額
の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益	金額
報告セグメント計	62,917
「その他」の区分の利益	1,734
のれんの償却額	3,329
全社費用(注)	62,191
四半期連結損益計算書の営業損失()	4,338

(注)全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費及び品質管理費用であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
該当事項はありません。

当第1四半期連結累計期間(自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				その他 (注)	合計
	産直畜産	総合宅配	牛乳製造卸売	計		
売上高						
外部顧客への売上高	847,528	170,447	15,075	1,033,052	21,192	1,054,244
セグメント間の内部売上高 又は振替高	29,460	625	15,075	45,161	62,943	108,105
計	876,989	171,073	30,150	1,078,213	84,136	1,162,350
セグメント利益又は損失 ()	55,482	510	5,909	49,062	1,706	47,355

(注)「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、牛乳宅配事業及び物流部門等を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益	金額
報告セグメント計	49,062
「その他」の区分の利益	1,706
のれんの償却額	3,329
全社費用(注)	60,081
四半期連結損益計算書の営業損失()	16,055

(注)全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費及び品質管理費用であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(企業結合等関係)

該当事項はありません。

(1 株当たり情報)

1 株当たり四半期純損失金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第 1 四半期連結累計期間 (自 平成24年 4 月 1 日 至 平成24年 6 月30日)	当第 1 四半期連結累計期間 (自 平成25年 4 月 1 日 至 平成25年 6 月30日)
1 株当たり四半期純損失金額	1円42銭	4円36銭
(算定上の基礎)		
四半期純損失金額 (千円)	5,953	18,225
普通株主に帰属しない金額 (千円)	-	-
普通株式に係る四半期純損失金額 (千円)	5,953	18,225
普通株式の期中平均株式数 (千株)	4,173	4,173

(注) 潜在株式調整後 1 株当たり四半期純利益金額については、1 株当たり四半期純損失金額であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成25年8月7日

株式会社秋川牧園
取締役会 御中

西日本監査法人

代表社員
業務執行社員 公認会計士 梶田 滋 印

代表社員
業務執行社員 公認会計士 大藪 俊治 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社秋川牧園の平成25年4月1日から平成26年3月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間（平成25年4月1日から平成25年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（平成25年4月1日から平成25年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社秋川牧園及び連結子会社の平成25年6月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。